

学校評価書 令和4年度(2022年度)

(S…目標を大きく上回る成果、A…目標以上の成果、B…ほぼ目標を達成、C…目標を達成できず、D…目標に対して、著しく下回る状況)

学校名	早 軔 高 等 学 校	学校状況	生徒数	906名	教育目標	総合評価		今後への改善点
校長名	國 吉 哲 郎		設置 学科	普通科 自動車工学科 生活クリエイト科 衛生看護科		学校 自己評価	学校 関係者評価	
設置の経緯	明治34年(1901年)阿部ヤスによって地域の子女の知育、徳育、和裁教育を目的に設置。その後、時代の変化に即応して男子生徒の募集、学科・コースの新設・改編を行いつつ地域教育の中核を担っている。					B	B	

評価項目	取 組 状 況		学校自己評価		今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見		
	目 標	具体的方策(教育活動)	個別評価	総合評価					
菁 菁 館	第 I 類	学習習慣の定着と成績向上	・学習習慣の改善 ・学力向上に向けた授業内容の充実 ・週6日制の授業体勢の確立(週39単位) ・8時間目のECL(選択受講制)の展開 ・少人数による選択授業の展開 ・スタディサブリの活用	B	B	学習習慣が定着している生徒が一定数いる一方、取り組みが不十分な生徒もまだ多い。1年生では全体的に成績の向上も見られた。限られた時間の中で、各教員とも指導の充実に向けて、授業準備やECLの設定等を行っているが、生徒の主体的な取り組みを引き出す工夫や支援は個々の取り組みに頼っている。学力向上に向け、コース全体としての指導体制を調整していくことが課題である。	・「振り返りノート」の効果的な活用に向けた指導体制の調整。(特別活動の観点別評価への利用等) ・ICTの活用等により授業展開を工夫し、生徒主体の学習時間や探究的な学びの時間の確保。 ・個々の理解度・定着度に応じたスタディサブリの効果的な活用に向けた学習支援。	B	進路実績を上げるためによく努力されている。早期に目標を持たせ、より以上の実績があがるよう指導してもらいたい。
		自立へ向け、生きる力を身につける	・公的な場における言動や身だしなみ ・挨拶など他者への配慮を持つ ・場にふさわしい行動を自発的に行う	B		服装等で大きな乱れはなく、挨拶等も一定レベルではできている。ただし、自発的に考えて判断し行動する力はまだまだ不十分な生徒が多い。生徒によっては、他者への配慮が不十分である行動も見受けられた。生活の様々な場面で他者意識を高め、主体的に判断して実践する力を伸ばしていくことが課題である。	・菁菁館として育てたい生徒の資質・能力に応じた授業や特別活動の充実。 ・生徒自身の主体的な活動や探究的な活動による、「自発的な判断や行動」が求められる場面の創出。		
		進路希望の実現に向けて主体的に取り組む姿勢を養う	・進路便りを作成し、基本情報を提供する ・進路講話や見学会を行い、進路に対する意識を高揚させる ・定期的に個人面談を行う	A		GPSアカデミックや学びみらいPASSといった既存の教材を活用したLHR等の充実に向け、学年クラス間で統一した取り組みを行うことや、生徒の主体的な活動を求める進路ガイダンスを行うこと等、指導内容の充実を図った。第2学年については希望者を対象に三学期に三者面談を行う等、生徒の進路に向けた取り組みを引き出すための指導に注力できた。一方で生徒の進路意識はまだ十分ではない。	・第二学年以降の「総合的な探究の時間」における学習内容や指導体制の確立に向けて教員間の調整を図る。 ・大学等進学後を見据え、大学等合格後も学び続ける姿勢を養成すること。		
第 II 類	学習習慣の定着と成績向上	・学習習慣の改善 ・学力向上に向けた授業内容の充実 ・週6日制の授業体勢の確立(週39単位) ・8時間目のECL(選択受講制)の展開 ・少人数による選択授業の展開 ・スタディサブリの活用	B	B	学習習慣が定着している生徒は、1年生を中心に一定数いるが、学習習慣・意欲が不足している生徒もまだまだ多い。各教員とも指導の充実に向けて、授業準備やECLの設定等を行っているが、生徒の主体的な取り組みを引き出す工夫や支援は個々の取り組みに頼っている。生徒の学びに向かう姿勢を引き出すために、コース全体としての指導体制を調整していくことが課題である。	・「振り返りノート」の効果的な活用に向けた指導体制の調整。(特別活動の観点別評価への利用等) ・ICTの活用等により授業展開を工夫し、生徒主体の学習時間や探究的な学びの時間の確保。 ・個々の理解度・定着度に応じたスタディサブリの効果的な活用に向けた学習支援。	B	個人差がある集団なので、個別最適な事業を展開し、個々が持つ能力を最大限伸ばし、今後の躍進に期待する。	
	自立へ向け、生きる力を身につける	・公的な場における言動や身だしなみ ・挨拶など他者への配慮を持つ ・場にふさわしい行動を自発的に行う	B		服装等で大きな乱れはなく、挨拶等も一定レベルではできている。ただし、自発的に考えて判断し行動する力はまだまだ不十分な生徒が多い。一部の生徒ではあるが、場に応じた行動を適切に判断できない生徒もいる。生活の様々な場面で他者意識を高め、主体的に判断して実践する力を伸ばしていくことが課題である。	・菁菁館として育てたい生徒の資質・能力に応じた授業や特別活動の充実。 ・生徒自身の主体的な活動や探究的な活動による、「自発的な判断や行動」が求められる場面の創出。			
	進路希望の実現に向けて主体的に取り組む姿勢を養う	・進路便りを作成し、基本情報を提供する ・進路講話や見学会を行い、進路に対する意識を高揚させる ・定期的に個人面談を行う	A		GPSアカデミックや学びみらいPASSといった既存の教材を活用したLHR等の充実に向け、学年クラス間で統一した取り組みを行ったことや、生徒の主体的な活動を求める進路ガイダンスを行ったこと等、指導内容の充実を図った。第2学年については希望者を対象に三学期に三者面談を行う等、生徒の進路に向けた取り組みを引き出すための指導に注力できた。一方で生徒の進路意識はまだ十分ではない。	・第二学年以降の「総合的な探究の時間」における学習内容や指導体制の確立に向けて教員間の調整を図る。 ・大学等進学後を見据え、大学等合格後も学び続ける姿勢を養成すること。			
教務部	教員の作業環境を充実 備品の使用を減らす工夫	・機材や備品等の管理、補充等を行う ・無駄のない使用法や効率化を図る	B	B	・各教員の作業が円滑に行えるように、機材や備品の管理、早めの備品補充や交換を行ったが、各教員の備品の使用量や頻度に改善が十分に見られない。 ・校務支援の導入に伴い、作業の効率化が進んだ反面、別の作業が増えるなど、内容を精査する必要がある。	・無駄をなくすことをひとりひとりが意識しないと経費がかさんでしまうことを考えられるよう呼びかけをしていく。 ・システムの内容を把握して、より良く使用できるようにする。	B	新課程が導入され評価方法が変わる等、対応が難しい中適切に対処している。SDGsを意識した取り組みにしっかりと取り組んで欲しい。	
	円滑な学校運営の下支えをする 伝達・周知を迅速、丁寧に行う	・業務連絡の確実な伝達 ・緊急時における情報伝達 ・職員会議等の資料準備	B		・いろいろ伝達することがあったが、伝達事項を見ない、把握しないような場面があり、混乱を招いていた。 ・緊急の伝達は担当が分担して協力し素早く行えた。 ・会議等の資料の準備は行え、管理できている。	・紙媒体だけでなく、メールやグーグルドキュメント等を活用して周知をする工夫をし、ペーパーレスへ進めていきたいが、紙面でないとかかりにくい場面もあるので工夫をしていく。			
	新しい学習指導要領に沿った学習の取り組み や工夫・改善を行う	・各学科における教育課程の分析 ・授業運営の工夫や評価の仕方の周知	B		・新課程になって教科、学科・コースと調整してきたが、初年度の内容としては十分であったとは言えない。資料等を提供したり、教科から意見をもらったり、改善を促してきたが十分な結果とは言えなかった。	・教科、学科・コースで取り組み方法を周知してもらい、意見をもらって改善方法を模索する。			

評価項目	取組状況		学校自己評価		今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見	
	目標	具体的方策（教育活動）	自己評価					
			個別評価	総合評価				
総務部	生徒が充実した高校生活を送ることができるよう教育活動に努める	・学校行事、美化活動を自主的に行わせ学校生活の充実をはかる ・地域社会に学科・コースの特色を活かした教育活動理解をはかる ・修学旅行を通して国際理解や学校生活では体験できないことを学ぶ	A	B	・海外研修は中止となったが、国内修学旅行が実施され、学年主任、担任の尽力で生徒の思い出に残る素晴らしい研修旅行になった。 ・芸術鑑賞、早稲祭、戴帽式、針供養など学校行事は感染症対策を状況に応じて考え、準備・片付けなど連携協力体制で実施できた。	・コロナ前の日常生活状態に戻るため、以前のように学校全体が積極的に行事に参加できるよう計画を促していく。感染症対策で学んだ経験は今後の活動に生かしていかなければならない。 ・校内美化を一層充実させ、教職員に過度の負担が生じないよう環境整備を進め、生徒が積極的に学習・クラブ活動に参加しやすい環境を整えていく。 ・教職員、生徒、保護者アンケート・意見を整理し、今後の施設改善を計画する。	A	コロナ禍で学校行事の運営に制限がある中、生徒の思い出に残る行事が実施できたことは評価に値する。校内美化活動も加速させ充実した学校生活を送れるようにしていただきたい。
	校舎内外の美化に努める（重点目標）	・教員、生徒が共通認識を持って、学校美化に努め、掃除状況を把握し、校舎を整備する意識を向上させる ・ボランティア活動積極的に参加することで奉仕の精神を養う	B		・今年度から普善館にしものせき美化美化大作戦の参加募集を始め、多くの希望者があり、活動範囲が広がった。 ・校内施設改善は、南グラウンド屋外照明増設、中庭改修駐輪場新設、弓道場改修等を行った。			
	エコ・リサイクル活動を推進する	・節水、節電を心がけるように指導する ・リサイクル活動の資源活用意識を定着させる	B		・缶、ペットボトルの分別は学校全体で取り組んでいるが、節電に対する行動意識が求められる。			
生徒指導部	社会性と基本的な生活習慣を身につけさせる	・校門における挨拶の励行（毎朝） ・朝礼・終礼前、授業前の静座黙想指導	B	B	①問題行動を起こした生徒数は昨年度と大きく変わらなかった。発覚の仕方もSNSを通じてが多く、ネットリテラシーの低さが原因であると考え。学級、学年、全体で指導をしているが、全校生徒が900名近くいる中では、完全に防ぐことは難しい。そのため、問題行動発覚後の指導を今後も徹底していかなければならない。 ②教員によって指導のばらつきが多少あるのは仕方ないが、全体で示した方針を理解していない教員が数名おり、生徒に不利益な指導結果になることが多々あった。報告・連絡・相談以前に、全体への指示を聞いていない教員がいたため、今後は教員に応じた伝達方法の構築に力を入れていきたい。	B	教師間に指導のばらつきがあるという課題があるようだが、生徒たちは間違いなくよくなっている。課題を改善し、ますます良い生徒を育てたい。	
	規範意識を持たせる（生徒自身が主体的に考え、社会秩序の大切さを理解させる）	・学期2回程度の頭髪服装検査 ・校内巡視 ・校外指導 ・全体指導 ・違反者指導 ・別室指導	B					
進学指導部	進学する生徒の進路先の確保	・志望する大学・短大・専門学校等へ進学させる ・進学先未定生徒を減らす	A	B	・進学者数(本館卒業生)4年制大学(47名)短期大学(5名)専門学校(87名)に合格することができた。 ・基礎力診断テストを実施し、基礎学力向上に努めているが、その結果を十分に活用できていない部分がある。 ・年々、志望理由書を課す学校が増える中で、自分の言葉で表現する能力が身に付いておらず、指導に苦勞する場面があった。 ・外部講師を招き面接講座を実施し、面接対策をおこなった。 ・コロナ禍ではあったが、可能な限り進路ガイダンスや上級学校見学会を実施し、生徒に進学情報の機会を提供した。校内ガイダンスにおいては就職指導部と連携し上級学校だけではなく、各企業も多数参加していただき、充実した内容のものとなった。	A	進学に対する意識が育っていないとか、基礎学力が低い生徒がいるなどの課題もある中、進学実績をあげていることは評価できる。今後も課題と向き合い改善しながら、進学実績の向上を目指して欲しい。	
	進学に関する情報の収集と提供の充実	・進学に関する情報の収集 ・進学に関する情報の提供 ・進学に対する意識の向上を図る	B					
	進路意識の向上	・各種進路ガイダンスの実施	B					
	学力の向上を図る	・基礎的な学力を向上させる	B					
就職指導部	基本的な生活習慣の確立	・欠席、遅刻をなくすことが進路目標の達成に大切であることを自覚させる	B	B	・外部講師による講演会、講習会を実施したことで、ガイダンスの充実を図り、働くことへの意欲の喚起に結びついた。自治体主催のイベントは中止が多かった。 ・3年生1学期から2学期にかけて小テスト・一般常識テストを実施した。小テストはクラスにより活用に差があった。 ・SPI模擬試験を行い、2年生は入門編、3年生は基礎編を実施した。教科と連携して試験に向けた対策ができればよいと思う。 ・個別、集団面接を段階的に実施し、生徒も積極的に参加し、成果があったと思う。クラスによっては担任によってかなりレベルが引き上げられていた。 ・応募前職場見学は就職試験を受験した生徒のほとんどが参加し、就職意欲の向上や、早期就職内定につながった。 ・Google Classroomを利用し、各種資料の提示、面接対策や企業情報などの動画提供、面接や履歴書対策の課題作成、筆記試験対策など多岐にわたり活用した。	A	コロナ禍にもかかわらず、外部講師による講習会や応募前職場見学等を実施して、生徒に就職に対する意識付けを行ったことが、高い就職内定率に繋がったのだろう。来年度は新たな試みもされるようなので、好結果を期待している。	
	望ましい勤労観・職業観の育成	・勤労意欲の育成 (応募前職場見学、インターンシップ実施) ・外部講師による講習会を実施 ・フリーターの希望者を出さない指導に努める	B					
	社会人になる心構えの育成	・面接模擬試験を実施 ・外部講師による講習会を実施	A					
保健体育部	集団行動の充実（時間厳守、服装の正しい着用、靴の履き替え、挨拶・礼の指導）	・授業時間、全体集合等において好ましい礼法を徹底させ、入場の際は私語を慎まさせる	A	B	・全体集合等において、時間厳守、整列後の私語、服装面は良くなっており、静粛な雰囲気がつくれている。 ・施設、設備面では今後、施設・設備面をさらに良くしていきたい。 ・感染症予防として、換気、手洗い、消毒等による対策をとったが、新型コロナウイルスの感染者が複数名出た。しっかりと感染症対策を取らずに感染したケースもあるので、継続的に指導が必要である。また、今年度も性教育の講演を実施した。 ・クラブ活動の活性化については今年度は陸上部・卓球部・ソフトテニス部・男子バスケットボール部が中国大会に出場。	B	集団行動で好ましい状況が現れてきていることだと推察できるので、ますます向上していくよう指導をお願いする。部活動も良い成績を出しているが、さらなる好成績を残せるよう各部とも取り組んで欲しい。	
	施設・設備の充実（より充実した授業展開に向けて）	・より充実した施設・設備が整うよう研究する	B					
	感染症の予防及び性教育の充実	・手洗い・うがいの実践を促し、保健の授業では予防方法を理解させる ・性教育の講演を実施	B					
	部活動の活性化	・施設、設備が整うよう研究する ・クラブ顧問との関係を密にし、活性化を図る	B					

評価項目	取組状況		学校自己評価		今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見	
	目標	具体的方策（教育活動）	自己評価					
			個別評価	総合評価				
広報部	学校外への広報活動	・様々なメディアを通して校内外へ早朝高校をアピールし、高校に対して好印象を持ってもらうようにする	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 先生方から様々な意見がでることによって精力的な広報活動ができています。またコース主任を始め、多くの先生方が協力してくれ結果に結びついている。 オープンキャンパスは今年もコロナ禍対策を取り実施できた。実施内容も中学生・中学校に満足いくものができたと思うが、実際のところ昨年度より参加人数が夏は100人減少しており、特に菁菁館での減少が著しい。早急に対応をしなければいけない事案なので、広報としての取組を思案中である。また保護者の参加者数は過去最高なので、引き続き情報公開に努めたい。「推薦、専願受験」での受験数には寄与できたが、やはり「一般受験」の受験者は減少している。市内中学生の増減に対し、公立高校が定員増加をするなど私立への逆風があるので、引き続き油断できない状況である。 すべての活動において早朝高校の全教職員の活動が元にあったことである。引き続き教職員全員で広報活動をする、という意識が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍は収まりつつあるが、昨年度より取り組んでいるHPの充実やSNSの利用による情報発信のシステム構築は引き続き続ける必要がある。また実体験は大事なので、感染症対策を踏まえ「体験」することも構築していきたい。 市内生徒数を増やすため塾への広報活動もある。コロナ禍で中々難しいが、塾訪問を始め、情報共有を積極的に行い連携を強め、市外の高校ではなく、「早朝」を選ぶ生徒を確保することに繋げていくことが重要。 市内中学校との連携を深めるため中学2年生対象の行事など中連携がとれる仕組みを引き続き構築していく。 宇部、小野田、山口地区などから徐々に生徒が入学してきている。その人数を増やすとともに関門という地域性を生かし、門司地区にも広報活動を広める必要はある。 	A	SNSを利用して学校や部活動の様子を発信していることは、広い範囲に情報が伝わり、多くの入学生を確保することに貢献している。現在の活動を継続して、本校のことをしっかりとアピールしてもらいたい。
	学校内への広報活動	・学校内における情報伝達者として情報発信、情報交換を行い、職員の意識共有に努める	B					
情報管理	授業改善の提案を行う。	・プロジェクターを活かした授業展開の提案や導入を促す。	B	B	・授業改善ではないが、その基盤として採点ソフトの提案・ソフトの選定を終了した。来年度、全面使用となる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育の情報化は今後ますます加速していくことが予想される。現在は、他校に遅れを取ることが無いよう取り組んでいるようで安心している。金銭面などで大変な部分があるとは思いますが、よろしくお願ひします。 	
	成績処理を中心とした、管理改善を行う。	・校務支援ソフトの導入の環境を整える。	B		・校務支援ソフトが本格運用となった。一定の証明書の微調整は終了したが、観点別評価等の対応、職員の操作スキルの工場など課題が残っている。			
第三学年	「社会で認められる力を身につける」	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を定着させる。出席率のさらなる向上。 校則・ルールを守り、集団生活を通して思いやりの気持ちを身につける。 挨拶の励行、正しい言葉遣い、礼儀に始まるコミュニケーション能力を向上させる。 社会の変化に柔軟に対応できるように、自ら学び、自ら考える力を身につける。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒は改善が難しかったが、多くの生徒が基本的な生活習慣を確立させ規則正しい生活を行った。 規範意識も高く、集団として適切な学校生活を行った。 進路を意識したことからも、言葉遣いなどが改善され、礼儀正しい人間関係を構築していた。 社会情勢により大きな影響を受けたが、中でも主体的に行動し学校生活を充実させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価を見る限り、「基本的な生活習慣が確立できた」「規範意識が高い」「言葉使いが改善された」「主体的な行動ができた」等あり、最高学年として立派に取り組んでいる。 	
	「最高学年としての自覚と責任を持つ」	<ul style="list-style-type: none"> 最上級生として何事にも率先して取り組み、あらゆる機会に下級生に模範を示す。 高校3年間の締めくくりにふさわしい行動をする。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学校生活を送る中でも、活動の自発性や活発性を高められる取り組みを行いたい。 規範意識の高まりが学級や学校全体に波及するよう、より自覚した行動を促したい。 適切な人間関係を早期に構築させ、学校生活を安定させたい。 社会の変化に対応するために、より基礎の部分からの成長を促したい。 			
	「進路実現を図る」	<ul style="list-style-type: none"> 志望進路先を早期に決定し、それに応じた対策を講じ、進路実現を図る。 積極的に進路について興味関心を持ち、自分の力で進路決定する。 学力を向上させ、入学試験・就職試験および卒業後に備える。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事が限られる中、率先して主体的に活動し範を示した。 落ち着いた学校生活を行い、3年間での成長を示した。 			<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で、他者の視線を意識した言動ができる場面を増やしたい。 3年間の集大成となる様々な行事等の活動をより充実させたい。
第二学年	基本的な生活習慣の確立	普段から規則正しい生活を心がけ、遅刻、欠席をしない。校則・ルールを守る。明るく元気な挨拶の励行。正しい言葉遣い・礼儀を身につける。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立については、安易な遅刻欠席は少なく、積極的な挨拶や話を聞く姿勢が見られている。校則・ルールに関しては再三の指導が必要な生徒がいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席の減少に関する指導を継続的に行う必要がある。来年度は進路目標を実現することを高いモチベーションとしてみよう一段階高い目標を達成したい。 生徒の良いところをより伸ばすための指導と、課題となるところを改善するための指導の両方を充実させていくこと。特に、進路決定に向けて、一人ひとりの生徒が十分に取り組み力を伸ばし、よりよい進路実現となるために、伸ばす教育の部分にもしっかりと力を使いたい。 重大な課題を抱えた生徒に対しては、組織全体で問題意識を共有し、適切な協力体制のもとで、効果的に指導力を発揮できるようにしていく。 	
	進路目標の確立	自分の夢を見つける。進路目標を定め、それに見合った努力をする。幅広い進路について研究をし、最善の進路選択を行う。	B		<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が目標に向けて取り組み、一定の成果をあげている。非常によく頑張った生徒も居るなかで、取り組みが不十分で課題の残る生徒が一定数いた。 			
	学力の向上	学力の向上を目指し、就職・進学に備える。普段の授業を大切に、学力の向上を目指すとともに、家庭学習の習慣をつける。	B		<ul style="list-style-type: none"> 連絡、報告を意識して指導に当たり、生徒に対して多くの目で見、共通認識のもとでの指導を図った。重大な課題を抱えた生徒に対して、担任のみでなく、副担任、学年主任、保護者とも連携して取り組めた場面があった。 			
第一学年	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 高校生としての基本的な生活習慣を身につける。 校則・社会規範を守ることが身につける。また学校生活を通して他人に対する思いやりの気持ちをもつことで協調性を身につける。 明るく元気な挨拶をする。正しい言葉遣い、礼儀に始まるコミュニケーション能力を身につける。 部活動等の諸活動への積極的参加を通じて心身の健全な育成を図る。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 出欠状況については、クラスでの取り組みにより概ね良好な状態であった。現状で欠席や遅刻が多い生徒に対しても継続的に指導している。 校則も多くの生徒が守られていたが、一部生徒の服装の乱れや規範意識の低い場面があった。学年全体で積極的に声をかけていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価には出欠状況は概ね良好だし、校則もほとんどの生徒が守られている。また、授業に取組む態度もよいとあるので、学年全体としては落ち着いて学校生活を送っているようなので、課題のある生徒に先生方全員で指導し、少しでも改善されるよう取り組んでいただきたい。 	
	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に取り組み、学習に臨む態度を確立する。 ノート・プリント等を提出物を期限内に提出する習慣をつける。 基礎学力の向上を目指し、就職・進学に長期的に備える。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 部活動に加入している生徒は、意欲的に活動に参加していた。 授業態度も概ね良好であった。一部生徒については、教科担当と担任との連携を今以上に意識していく必要がある。 			
	進路目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 進路についての理解を深め、具体的な目標を持ち、自分の夢を見つける。 ガイダンス等に積極的に参加し、進学・就職に対する考え方を学ぶ。 自ら積極的に進路について興味関心を持ち、担任や保護者と相談していく。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスでは多くの生徒が積極的に活動し、進路意識を高め、具体的な進路目標を持つことができた。また、適性検査を行い自分を見つめる機会を持つことができた。今後も継続的に進路探求を行っていききたい。 			